

そこには患者にしか語れない
ことばがある

「健康と病いの語り」データベースは、
病気の診断を受けた人やその家族が、
同じような経験をした人たちの「語り」に
触れて、病気と向き合う勇気と知恵を身に
つけるために作られたウェブサイトです。

「病む人々が、...自分と世界との関係に新しい見方を打ち立てるために、自らの物語を語ることを必要とする」

「(病の脱近代的な経験は)
医学的物語によって語りうる以上のものが自らの経験に含まれていると、病む人が認識するところから始まる」

病む人は病いを物語へと転じることによって運命を経験に変換する

『傷ついた物語の語り手』アーサー W. フランク

「はじめの時点で主体が与えられているわけではない」

ものがたりの中で「自己が生まれるのである」
(ポール・リクール¹の引用として)

語られるのではなく、語ること
自己とは、語り(telling)なのである

人々にとって、自らの物語を専門家の権限の届かないところに移行させるということは、自らの個人的な責任をより深いところで引き受けるということを意味している。